

八月十日

八時前、ホテルのレストランで若松氏と朝食。八時半迎えのバスで出発。エルミタージュ美術館冬の王宮横の船付場よりネヴァ川をピョートル大帝の夏の王宮、ペトロドヴァレツへ。三〇分程の船旅といっても飛行機みたいな水中翼船。フィンランド湾に面した場所へ。フィンランドまで二五〇キロメートルとの事。フィンランドのロシア嫌いが良く解るような気がする。近すぎるのだ。バロックというよりもグロテスクとも呼びたい程のスーパーキツチュの大噴水は、ここまでやるかと言う位のスーパーキツチュさである。宮殿内も、これでもか、これでもかのあくどさで日本の安土桃山文化あるいはブルーノ・タウトが毛嫌いした日光東照宮などは実に、ささやかなモノである。スラブ民族、というよりロシア皇帝はまさにタウトの言う通り將軍の文化中の大將軍の文化であるな。徳川將軍のえげつなさ位で怒ってもらっては困る。ちなみにドイツ軍はこの離宮を焼き払ったが旧ソビエトは一九五八年までにこれを復元した。今、これは度外れたスラブバロックとしてロシアの宝となっている。ここも人又人の行列である。いくつかの噴水を見学して、帰途につく。帰りは陸路バスで。高級ターチャが並ぶ中、プーチン現大統領がサンクトペテルブルグの宿泊場としている王宮もバスの窓から眺めた。権力者は王宮がお好きなのだ。プツシユのホワイトハウスも、そう言えばヨーロッパの王宮を模したものなのか？アレはチョツと違うか。サンク

トペテルブルグに戻り、エルミタージュ美術館へ。美術館広場に面したレストランで昼食。半分嫌々入館したエルミタージュ美術館はここも又、人間の行列の大群であったが、展示物は凄かった。レオナルド・ダ・ヴィンチの聖母像、ラファエロのものミケランジェロの彫刻、そしてレンブラントのコレクシヨンとしては最高のものだと言う部屋を走るように巡った。帰りがけにチラツと見たエジプトの部屋が凄かったが、これをじっくり見ていたら数日かかるであろう。十五時半、ホテルアストリアに戻って小休。家より若松氏の社経由で社長のケイタイに連絡が入り、若松氏も事故かと思いい私の部屋にかけつけてくれたが、息子雄大のヨット部に白井早大総長が十二日午後来るとの事で、お目にかかる事にした。モスクワ大学からの依頼も伝える事が出来て、良いタイミングであった。十九時二十五分ホテル発、アレクサンドル劇場へ。二〇時レニングラード交響楽団の多分二軍による演奏によるロシアバレエを観る。ひどく退屈。私はロシアバレエはわかりません。それでも幕間を挟んで二幕二時間を眠りながら、ガマンする。二十二時修了。サアー、メシ喰うぞとホテルの近くの日本料理に行くもダメで又、劇場近くの「焼鳥」なる日本レストランに長征するも満員で入れず。仕方なく近くの太平洋という名の日本料理屋に行く。若松氏と日本酒を飲む。馬に乗って通り過ぎる娘達がいる。

八月十一日

一時過ホテルに戻る。サンクトペテルブルグでは十一時迄明るいので、時間感覚がゆらぐ。

ここで一番驚いたのは、私が今、製作している銅版画に彫り込んでいる建築群の一部があった事である。まさかこんなモノ、無

いだらうと思いながらの製作自体も又、ゆらく。海軍省の建築なんかはそのモノ、ズバリであった。私の想像力なんて他愛ないものだ。しかし何故、スラブパロツクなのだろう。それにしても、サントペテルブルグはなにしろ寒くて風邪をひいてしまった。ホテルのバスルームの豪華さと比較して、その鏡に写っている私の顔の貧相な事よ。上手に年令を積み重ねていないな実に。八時朝食を一人でとる。今日はモスクワ経由、東京迄の長旅である。体調悪し。明日は総長と葉山で会ったり、高山建築学校の会で鈴木博之、木田元両先生と夜会わなくてはならぬから、体力を温存しておかなくては。飛行機はズーツと眠ってゆく事に決める。鼻水がグズグズして情けない。十時前部屋に戻って休む。帰り仕度も全て終えた。十一時チエツクアウトを終えて、空港へ発つ。サントペテルブルグのガイドの女学生は吉本ばななと村上春樹のファンであり、ポスト・モダニズムの小説は自分達のフィリグと近いと言うような事を述べていたのも印象深い。バスの中で遂にダウン。熱は無いようだが、鼻水が苦しい。バスの最後部座席で横になって寝た。今、十四時半空港内部待合室で待たされている。

八月十二日

サントペテルブルグ、モスクワ経由で今日の十時前NRTに戻った。モスクワからの飛行機では何も食べず、何も飲まず、ただただ眠った。余程疲れていたのだろう。十時前NRT着。若松氏の車で品川へ。京浜急行品川で家内と待ち合わせて、十三時四〇分頃三崎口へ。駅前の食堂でまぐろ丼食べる。タクシーで油壺マリーナへ。早大ヨット部OBの並木氏別荘月光ハウスへ。十四時半過、江ノ島よりヨットで白井総長着く。モスクワ大学よりの

依頼状説明して渡す。ななかまどのウオツカをヨット部に差し上げる。キャビアも。十六時過まで。ヨット部のOBに送っていただき、三崎口へ。只今十九時品川で乗り換えて山手線車中。高山建築学校の会で駒込に向かっている。二〇時前、駒込のPLAN 21で木田元先生、鈴木博之先生、趙海光氏等と高山建築学校の記録本の出版お祝いの会。久し振りに木田元先生とお目にかかる。楽しい会であった。今日は鈴木博之とは別の電車で帰ったので、行き先を間違える事もなく、平穩に帰れた。木田元先生は相も変わらず泰然自若としてらして、今はもう七十六才。俺の方がどうやら長生きしそうだと豪語されていた。そうなるしまうかも知れないと思わぬでもない。二十二時四〇分現在、山手線池袋を通り過ぎた。二十三時半世田谷村帰着。

八月十三日

午前中世田谷村。午後研究室。二十三時過迄打合わせ。二十四時半世田谷村に戻る。

八月十四日

十時、難波和彦先生他十名程世田谷村来。サステイナブル・ハウス研究の取材。十二時過迄。難波さん、家内と宗柳で昼食。十五時過迄。研究室へ。打ち合わせ。二〇時前修了。世田谷村戻り。今日は家内の誕生日で食事をする。大きな家に二人切りと言うのも仲々のものだ。

八月十五日 日曜日

午前中、少し寝過ごしたが、八時よりを過ぎてしまった室内原稿書く。今夕までに送らなくては本当にダメだと工作社長井か

ら言われている。十二時前何とか書き上げる。当然、ロシアのダイチャについて書くも紙数が足りない。山本夏彦さん程の短文の技術も知識量も無いから、紙数がどうしても必要となってしまう。手を入れて十四時頃最終稿を工作社に送附した。念の為、工作社に電話したら、元気な女性が応答。勿論日曜日だと言うのに長井もいて、私の原稿にキチンと注文をつけた。すでに、女性の時代になっているんだ。十五時研究室へ発つ。野村、渡辺と打ち合わせ。石井の図面を見る。十九時前、研究室を発ち、二〇時世田谷村、雄大が合宿所より戻っていたので三人で食事。長男も大学は体育会系の運動部に所属したので、何とかまともなやれている。ヨット部に行きたいというのを、最初は何を考えているのかと怒りもしたが、アレは私が間違っていた。

私たちは自分自身では何も作れぬ人種になってしまっているのではないかと考えるようになって久しい。身の廻りのモノ一切合切を買って、買いまくって暮らしている。余ったモノはこれも又捨てまくる。それで出現している大量のゴミの山。世田谷村だつて凄いゴミを毎週出している。その象徴が日本の戸建住宅である。あれはそんな大量消費生活のパッケージだ。住宅自体も又、何も生産しない。エネルギーも食料も。つまり、日本の戸建住宅のほとんどの実体はゴミなのだ。総合性の世界から眺めればそうだな。戸建住宅の未来は何処にあるのかな。そのデザインに大事な意味を発見できるのか、屋上菜園くらいしか無いんじゃないか。